（様式2）　　平成　25　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572108041		
法人名	社会福祉法人　阿仁ふくし会		
事業所名	グループホーム　桂寿あに		
所在地	秋田県北秋田市阿仁水無字宮後4番地		
自己評価作成日	平成25年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　秋田ハッピーライフセンター
所在地	秋田市将軍野桂町５－５
訪問調査日	平成26年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自分らしく生き生きとした心地よい生活を送れるように、出来ないところはお手伝いするホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、利用者主体の支援を優先することを共有し、利用者が安心して生活できるように努めている。日中は殆どの時間を過ごすホールは、陽が入り明るくゆったりとして、職員の優しく親切な対応には心地よさを感じ、会話も多く表情も明るい。玄関まわりの畑では、野菜作りの好きな利用者が季節ごとの旬の野菜を収穫し、新鮮な野菜料理の献立を考えてくれたり家庭的な雰囲気で食事を楽しんでいる。地域とは、年2回行われる近隣自治会との交流会やボランテアの「話っこの会」、保育園、小学校などとの交流を深め、出張寿司屋の訪問もあり、利用者を楽しませている。ホームの行事等にも参加をお願いし、特に災害時を想定した避難訓練の際には近隣住民やボランテアの参加を得るなど、協力関係を大事にしながら、地域との結びつきを深めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の全体申し送りで、理念を共有し実践につなげる為、呼称している。	法人と事業所理念を実践につなげるため、朝の申し送りで「ふれあい・支え合い・学び合い・安らげる生活の実現を目指す」、「自分らしく生き生きと心地よい生活を送れるように」を印刷しホーム内に掲示して、読み上げるなど、管理者、職員が理念を共有して、日々のケアに反映するように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方を行事に招待している。 年に数回、民生委員やサークル活動ボランティアが来所している。	年2回地域住民が参加する交流会では、竹を利用した流しソーメンやキリタンポ鍋等で交流、100キロマラソンの応援にも出かけるなど、また、保育園、小学校、民生委員やボランティアサークル等との交流、参加、避難訓練やホームの行事への協力等、相互交流が日常的に行われている。	近隣の自治会で行われている「生き生きサロン」に参加して地域の方々や馴染みの方々との交流を深め、関りを継続して行くことに期待する。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	行事の際の交流の場で認知症を理解していただく努力をしている。（症状等）		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催し、利用者の近況報告、行事報告をしている。	年6回、定期的に運営推進協議会を開催し、行政、地域代表、老人クラブ代表、特養施設長、民生委員代表、家族代表が出席し利用者の近況、ヒヤリハット事故についての報告、その他、その時々の話題を盛り込み意見交換しながら、サービス向上に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事あることに市窓口に出向き相談や協力をしてもらっている。	市の担当者とは、日頃から連携を密にし、ホームの状況を伝えるなど、日常的に相談し助言を得ている。また、市主催の勉強会等には積極的に参加して情報交換の機会を活かしながら、協力関係を築いている。	地域包括センターとの関りが無く、今後利用者の自立支援を目的に健康指導、介護度等に関する助言指導等を利用者にも活かしていくため、積極的な地域包括支援センターとの関わりを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の自由な行動を職員全員で見守っている 身体拘束禁止の研修会にも参加している。	身体拘束によって利用者に与える精神的、身体的苦痛を正しく理解するため、全職員がマニュアル等を通して、勉強会や研修会に参加するなど、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	不適切ケア・虐待防止の研修会に参加し、全職員で勉強会を開いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の課題として成年後見制度の研修会等に職員を参加させたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明をし、納得した上で同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、毎月に近況報告の際に意見・要望を伺っている。	利用者からは日々の生活の中から、家族からは、面会時や電話での状況報告後に苦情や意見、要望が聞き易いように話しかけ、聞き取ったことについてはサービス提供に活かせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見要望を開き、管理者会議等で対応をきめている。	毎月行われている職員会議で、職員の意見や要望を十分話し合い、法人の管理者会議等で協議して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自の職務には責任を持って頑張っているが給与面では不十分に感じる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修復命書等で参考になる内容の物は勉強会等で取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で、同業者と交流があった際は、情報交換し良い取り組みは取り入れる様にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接面談で状態を確認等をし、不安なく生活できるように準備する努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面接面談で状態を確認等をし、不安なく生活できるように準備する努力をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見極めて無理のない範囲で職員と一緒に作業をする様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のお便りで行事等の呼び掛けをし参加を促進している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的にボランティアを受け入れ外部の方と交流を深めている。	地域の情報や馴染みの関係が途切れないように、買物や回転寿司に行くなど、また利用者同志の交流を深め、定期的にボラティアを受け入れるなどして、関係が継続するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に職員が寄り添っている事が多い為、孤独等はなく入居者同士のトラブルもない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても信頼関係を継続している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添える様に努めている。	入居時のアセスメントや日々の会話、表情等から思いや意向の把握に努め、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前のアセスメントで生活歴を把握し、サービス提供をスムーズに出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前のアセスメントで生活歴を把握し、サービス提供をスムーズに出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する前に本人、家族から意向を聞き担当者会議でケア方針を決める	本人や家族からの要望や意見を聴き、毎月の職員会議で話し合い、更にモニタリングを行って、本人、家族の意向が反映された介護計画を作成し、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間のケース記録で職員が情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	仕事を通して地域のボランティアを受け入れ交流の時間を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期受診で状態報告を主治医に伝え、健康管理に努めている。	毎月の定期受診の結果についてはかかりつけ医に伝え、家族には電話や状況報告時に行っており、適切な医療を受けられるように支援している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態に関して、併設事務所の看護師に相談し、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、定期的に病院に出向き関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前の重要事項説明でも確認して、関係職と方針を共有している。	医療行為が必要となった場合やホームで対応できない場合、関係機関と話し合いの場を設け、マニュアルに従い、必要とされる施設の紹介を行う等、支援方針を職員間で共有し、家族等へ説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員とはいかないが、救命講習には職員が参加している。今後の検討課題		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練は実施している。 年に一度、地域との避難訓練も行っている。	毎月1回、事業所単独の避難訓練を行っている。また年1回は、消防署立ち会いで、火災や地震想定の併設施設との合同避難訓練が地域の方々の参加のもとに行われている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して接しているが親しみを感じてもらう言葉遣いで配慮に欠ける事もある。	一人ひとりの人格を尊重し、声かけには特に配慮され、誇りやプライバシーを損ねることのないように、親しみのある言葉で対応しており、面会は居室やホールで行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を聞き入れる様に努めているが、全てには困難もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者自身の居心地良い場所で過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	本人の好きな服装で過ごしてもらっている。 外出の際は、オシャレしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材で入居者が季節を感じられる献立を工夫して一緒に楽しんでいる。	職員と一緒に食事の準備や後片付けをしたり、畑から収穫した旬の食材が食卓に上がるつど、出来栄えを話題にしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理を十分にし体重増減に注意している。 食事量も個々に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は殺菌作用のある、お茶でうがいをして義歯洗浄を毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排出を記録し一人ひとりに合わせた声掛けで誘導している。	排泄記録簿により、本人の状況に合わせトイレで排泄できるように支援している。利用者のプライドを傷つけないように配慮し、夜間は持参のポータブル便器の使用者もいるが、それぞれの排泄パターンを活かして自立にむけた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳・ヨーグルトを提供して自然排便を促し便秘予防に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の入浴は、人数・曜日で決められているが希望がある場合は対応する様努めている。	一人ひとりの希望や習慣に合わせた支援をしている。入浴は週2回となっているが、希望がある場合は臨機応変に対応するようにしている。入浴には保湿効果のある入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣で生活していただける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々人の服薬ファイルを管理し職員全員が理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の出来る範囲で職員が声掛けして一緒に行動して活気のもてる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	行事計画で外出の機会を多くしている。天気の良い日はドライブで季節を感じてもらえる様支援している。	本人の希望により、外出の支援に努めている。また天気のよい日は散歩や買物をしたり、季節ごとに花見や紅葉等ドライブに出かけたりして、自然の風景や季節の移ろいを体感できるように支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の依頼により施設で管理している。食物外出でお金を使える支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から入居者への電話はいつでも出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地の良い空間作りを支援して季節事の飾り付けで工夫している。	ホーム内は明るく、清潔で、共有スペースが広く、季節ごとの飾り付け、誕生会やクリスマス会には手作りケーキを作って楽しむなど、家庭的な雰囲気で季節感や生活感を取り入れ、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	入居者の生活習慣に合わせた居場所を提供して支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険物以外の持ち込みは自由で本人の居心地良い空間作りに支援している。	日中のほとんどは明るいホールで過ごし、利用者同志の交流の場となっている。居室には使い慣れた小タンスや衣装ケース、テレビ、椅子、家族の写真等持ち込まれ、家庭的で居心地よく安心して過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居心地の良い空間で自立した生活が出来るように支援している。		